SDGs達成に向けた取組みチェックリス **更新**　事業者名：本田技研工業株式会社熊本製作所

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。

（様式第2号）

基本項目記入数　25　　チャレンジ項目記入数　20

| 分類 | No. | チェック項目 | 基本 | チャレンジ | 具体的な取組み<br>（※事業者が記載する欄） | 主なSDGs（17のゴールと169のターゲット）<br>1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 組織・公正な取引 | 1 | 【内部管理体制】<br>・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。 | ● | | 「Honda フィロソフィー」は、Honda グループすべての企業と、そこで働くすべての従業員の価値観として共有され、あらゆる企業活動と、従業員の行動や判断の基準となっている。 | | | | | | | | 8 | 9 | | | | | | | | 17 |
| | 2 | 【法令遵守】<br>・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。 | ● | | 世界中の Honda で働く人々が実践すべき誠実な行動をまとめた「Honda 行動規範」を制定、リーフレットの配布やポスターの掲示、社内報の発行、啓発動画の配信、イントラネット上で事例解説等の紹介を行うとともに、研修を実施するなどの周知活動を行っている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | 16 | |
| | 3 | 【公正な競争】<br>・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。 | ● | | 反競争的行為について、関係部門に対する個別研修を実施しているほか、海外赴任者向け研修や新認定管理職向けの研修でも、反競争的行為をテーマとしたプログラムを導入。このほか、従業員向けのイントラネット上に反競争的行為に関する啓発コンテンツを掲載。 | | | | | | | | | | 10 | | | | | | 16 | |
| | 4 | 【組織体制】<br>・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。 | ● | | 企業の持続的成長や経営の安定化を図ることを目的とし、グローバルレベルで事業に影響のあるすべてのリスクを対象とし、取締役会で選出された全社リスクマネジメントオフィサーが中心となって、その仕組みづくりや定着に向けたフォローを実施。 | | | | | | | | | | | | | | | | 16 | |
| | 5 | 【知的財産保護】<br>・知的財産の保護に取り組んでいる。 | ● | | 全社重点リスクの一つとして「知的財産リスク」を設定し、知的財産権が侵害される、あるいは高額の賠償やライセンス料の支払いによる事業影響がないよう専門部署を中心に従業員へ周知。 | | | | | | | | 8.2<br>8.3 | 9 | | | | | | | 16 | |
| | 6 | 【個人情報保護】<br>・個人情報を適切に管理している。 | ● | | 個人情報保護に関する法律及び関連法令を遵守し、個人情報の保護に関する基本方針としてグローバルプライバシーポリシーを定め、これを全役員及び全従業員に周知徹底し、遵守すべき事項や推進体制を定め運用し個人情報の保護に努めている。 | | | | | | | | | | | | | | | | 16 | |
| | 7 | 【ステークホルダーとの対話】<br>・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体） | ● | | Honda がどのような価値を社会に提供しようとしているのかを適宜・的確に伝え、多様なステークホルダーの Honda に対する要請や期待を把握・理解し、具体的な施策に落とし込み、その評価を受ける、コミュニケーションサイクルの実践。 | | | | | | | | | | | | | | | | 16 | 17 |
| | 8 | 【サプライチェーン管理】<br>・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる。 | | ● | サステナビリティに対する考え方を全世界のサプライヤーと共有し、ともに推進するための「Honda サプライヤーサステナビリティガイドライン」「Honda グリーン購買ガイドライン」を発行し、コンプライアンス違反等の問題事象の未然防止、環境負荷低減に努めている。 | | | | | 5 | | | 8 | | 10 | | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 9 | 【災害や事故への備え】<br>・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画（BCP）を策定し、訓練や見直しを行っている。 | | ● | 危機発生時には、危機の影響に応じてグローバル危機対策本部を立ち上げ、事態の拡大防止と早期収束を図る体制を整備。<br>日常から各対応班との情報連携を図るとともに、危機対応における基本行動の再確認（各班の連携確認）を行っている。<br>防災訓練においても、人命の安全確保、安否確認に加え、BCPの観点から、ビジネスに対する影響の早期把握を目的とした情報連携訓練に、継続して取り組みを実施。 | | | | | | | | | 9 | | 11 | | 13.1 | | | 16 | 17 |
| | 10 | 【事業承継】<br>・事業承継に関する検討・対策を行っている | | ● | 将来の取締役候補者である執行役に就任する際に、会社法やコーポレートガバナンスなどの経営に関する研修を実施しており、就任後も必要に応じ継続的に知識を更新するための機会を設けている。 | | | | | | | | 8 | 9 | | | | | | | | 17 |
| | 11 | 【公正な貿易】<br>・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。 | | ● | サステナビリティ方針を「Honda サプライヤーサステナビリティガイドライン」としてサプライヤーと共有し、製品安全・品質、人権・労働、環境、責任ある調達、コンプライアンス、情報開示といった重要課題について、サプライヤーとともに取り組んでいる。 | 1 | 2 | | | 5 | | | 8 | | | | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |

SDGs達成に向けた取組みチェックリス **更新**　事業者名：本田技研工業株式会社熊本製作所

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。

（様式第2号）

基本項目記入数 25　チャレンジ項目記入数 20

| 分類 | No. | チェック項目 | 基本 | チャレンジ | 具体的な取組み（※事業者が記載する欄） | 主なSDGs（17のゴールと169のターゲット） 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 労働・人権 | 12 | 【差別の禁止】<br>・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。 | ● | | Honda は、フィロソフィーに「人間尊重」を掲げるとともに、従業員に対して「他のアソシエイトを尊重し、誠実で公平な態度で接するとともに、職場におけるあらゆる形態のハラスメント不当な差別行為を一切行わない」行動を明確に求め、年 1 回定期での人権に関するeラーニングによる啓発活動を実施。<br>公平かつ中立な立場で、相談を受け付ける「企業倫理改善提案窓口」を設置。 | | | | 4.3<br>4.4<br>4.5 | 5.1<br>5.2<br>5.5 | | | 8.5<br>8.7<br>8.8 | | 10.2<br>10.3 | | | | | | 16.1<br>16.2<br>16.7 | |
| | 13 | 【労働安全衛生】<br>・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。 | ● | | 創業時より受け継がれている「安全なくして生産なし」の安全基本理念のもと「すべての人が、心から安心して働くことができる」職場環境の実現をめざし、安全衛生委員会を設置。安全衛生ガバナンスの運営と課題の共有・協議を労使一体となって履行している。 | | | 3 | | | | | 8.8 | | | | | | | | | |
| | 14 | 【公正な待遇】<br>・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。 | ● | | 同一労働同一賃金等の原則に沿って、従業員（正規従業員・嘱託従業員, 臨時従業員, パートタイマー, 季節従業員, アルバイトおよび期間従業員）の公正な待遇を行っている。 | | | | | 5.5 | | | 8.5 | | 10.2<br>10.3 | | | | | | | |
| | 15 | 【ワークライフバランス】<br>・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。 | ● | | 仕事と生活の両立に取り組む従業員に対する個別の相談受付や制度の周知と活用の促進のため、相談窓口を設置。男女各 1 名の担当者が従業員本人やその上司からの相談に対応。 | | | 3 | | 5.5 | | | 8.5<br>8.8 | | 10.3 | | | | | | | |
| | 16 | 【人材育成】<br>・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。 | ● | | 従業員一人ひとりの主体性やチャレンジ意欲に重きを置き、実務経験を重ねるなかで、専門性や職務遂行能力を高める OJTを中心とした育成を実施。また、従業員がさらに自律的にキャリアを形成することができる環境を整備し、「キャリアを軸に自己研鑽を促す能力開発」を強化。<br>1. OJT ／ Off-JT<br>2. 年代別キャリア研修<br>3. 自己選択型学習プログラム（オンライン・ e ラーニング）の導入<br>4. 学習管理システムの導入<br>5. 生産エキスパート体制による強い技術者の輩出強化 | | | | 4 | 5.5 | | | 8 | 9 | | | | | | | | |
| | 17 | 【健康経営】<br>・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。 | ● | | 快適な作業・職場環境のもと、自らが将来を見据えて心身の健康の保持増進に努め『従業員一人ひとりが心身ともに健康で安全に力一杯働くこと』ができる企業の実現をめざし、その実現に向け、健康宣言を策定するとともに、「3 つの柱」と「5 つの管理項目」を健康経営の方針として設定。<br>「健康経営優良法人 2022」の大規模法人部門に認定。 | | | 3 | | | | | 8 | | | | | | | | | 17 |
| | 18 | 【ダイバーシティ経営】<br>・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。 | ● | | 「誰もが等しくキャリアを描ける世界」を実現するためのロードマップを描き2015年1月に多様性推進室を設置し、3つの柱で推進。<br>1.意識・風土改革<br>・経営からの発信　・階層別研修・イベント　・社外活動への参画<br>・多様性推進の取り組みサイト立ち上げ<br>2.キャリア形成支援<br>・キャリア計画書策定とキャリア面談の実施<br>・育児期のキャリア支援プログラム<br>3.制度・環境整備<br>［新規］<br>・半日有休　・在宅勤務　・育児費用補助　・企業内託児所<br>［拡充］<br>・短時間勤務　・一時保育の拡大 | | | | 4.4 | 5.1<br>5.5 | | | 8.5 | | 10.2<br>10.3 | | | | | | 16.7 | |
| | 19 | 【新しい生活様式への対応】<br>・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。 | | ● | フレックスタイム制やリモートワーク制度を整備し、web会議も取り入れ、感染症対策や新しい働き方への対応を実践。 | | | 3 | | | | | 8 | 9.1 | | 11 | 12 | | | | | |
| | 20 | 【デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進】<br>・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。 | | ● | 生成AIの活用やオフィスツールなど、デジタルを活用した日々の業務を効率化する環境の整備やデジタルの強みを活かす人材の育成として全社ソフトウエア教育を実施。 | | | | | | | | 8 | 9.1 | | 11 | 12 | | | | | |
| | 21 | 【ブライト企業】<br>・ブライト企業に認定されている。 | | ● | 2022年10月11日プラチナブライト企業認定。（労雇創第425号） | | | 3 | 4 | | | | 8 | 9 | | | 12 | | | | | |

SDGs達成に向けた取組みチェックリス 更新　事業者名：本田技研工業株式会社熊本製作所

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。

（様式第2号）

基本項目記入数 25　チャレンジ項目記入数 20

| 分類 | No. | チェック項目 | 基本 | チャレンジ | 具体的な取組み（※事業者が記載する欄） | 主なSDGs（17のゴールと169のターゲット） 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 環境 | 22 | 【環境汚染予防】<br>・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。 | ● | | 事業活動における環境影響評価を行い、重要な項目に関しては、技術的・経済的に可能な限り環境負荷ゼロを目指し、目標を設定し改善している。（ISO14001認証取得：熊本製作所1997年11月） | | | 3.9 | | | 6.3 | | | | | 11.6 | 12.4 | | 14.1 | 15.1 | | |
| | 23 | 【エネルギー】<br>・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。 | ● | | カーボンニュートラル施策としてクリーンエネルギーシフトを実施。<br>太陽光発電施策（事業所の屋根・駐車場・調整池へソーラーパネル設置）に加え、蓄電池設置による休日での発電。熊本県簡易計算シート使用。 | | | | | | | 7.3 | | | | | | 13 | | | | |
| | 24 | 【温暖化対策】<br>・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。 | ● | | CO2排出量を環境取り組み報告において開示。（日本国内の環境取り組みレポート2025　2024年度：熊本製作所CO2排出量17,000t）<br>また、熊本県へ事業活動温暖化対策実施状況報告書を提出している。 | | 2.4 | | | | | 7.2<br>7.3<br>7.a | | | | | 12.4 | 13 | 14 | 15 | | |
| | 25 | 【生物多様性】<br>・自社活動が環境（生物多様性や生態系等）に悪影響を及ぼさないように配慮している。 | ● | | Hondaは、自社の企業活動が生物多様性に影響を及ぼす可能性があることを認識し、早くからその保全につながる活動に力を入れ、2011年には「Honda生物多様性ガイドライン」を制定。生み出す製品と企業活動における環境負荷を最小化することが生物多様性の保全に対する最大の貢献だと考え、同ガイドラインにおいて、「環境技術の追求」「企業活動での取り組み」「地域社会との連携」などの重点取り組み領域を定め、積極的に推進している。 | | | | | | 6.6 | | | | | | | | 14 | 15 | | |
| | 26 | 【効率的な資源利用】<br>・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）に取り組んでいる。 | ● | | Hondaが目指すリソースサーキュレーションは、製品価値を使い切った車両（以下、ELV：End of LifeVehicle）を最大限活用する水平リサイクルによる資源利用。<br>製品や部品の価値を使い切るために、製品・部品のリユース・リパーパスに取り組んでいる。 | | | | | | | | | 9.4 | | | 12.2<br>12.4<br>12.5 | | 14.1 | 15 | | |
| | 27 | 【水の管理】<br>・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。 | ● | | 生活・工業排水（河川放流）の水質の測定を行い、規制値（協定値含む）内であることを確認し、測定実績を開示。（水の放流先：日向川経由合志川経由菊池川）<br>工場での取水・排水の使用量および品質管理の徹底や、水のリサイクル・リユースを100%できる設備の導入を通じて、貴重な淡水の保全に貢献している。 | | 2.4 | | | | 6.1<br>6.3<br>6.4<br>6.6<br>6.b | | | | | 11.5 | | | 14.1<br>14.2<br>14.3 | 15 | | 17 |
| | 28 | 【環境に配慮した製品等】<br>・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる（グリーン購入、リサイクル製品認証等）。 | ● | | ICE（内燃機関）のCO2削減も継続しながら、Hondaはバイクの「電動化」を進め、2040年代に全ての製品でのカーボンニュートラル実現を目指しチャレンジしている。<br>HondaはグローバルでコミューターとFUNモデルを合わせて、2030年までに累計30モデルの電動モデルの投入を計画。 | | | | | | | | | 9.4 | | | 12.4<br>12.5 | 13 | 14 | 15 | | |
| | 29 | 【食品ロスの削減】<br>食品ロスの削減に取り組んでいる。 | | ● | 出勤人数を把握し、社内食堂で準備する食数をコントロールしている。また、食べる量を自ら選択できるようご飯の小盛・普通・大盛を設定し、食品ロス削減に繋げている。 | 1 | 2 | | | | 6.4 | | | | | | 12.3 | | 14 | 15 | | 17 |
| | 30 | 【緑の保全管理】<br>・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。 | | ● | 「Hondaの生産工場と地域の人々との間には、その結びつきを遮断するようなコンクリートの壁はつくらない」これは、Hondaは地域社会と強く結び付き、地域社会の発展に貢献し、地域社会とともに成長していくのだ、という創業者である本田宗一郎の信念を表した言葉です。これ以来、Hondaの工場や事業所には、外部との境界を完全に遮断し、内部を隠してしまうような無機質なコンクリートの壁が作られることはありませんでした。そのかわり、ゆるやかに境界を示しながらも、人々がそこに入りこみ、集い、憩うことができる場として、「森」が作られ、地域の人々とHondaが積極的にコミュニケーションし、深い信頼関係を築いていける場所になるように。そんな想いを込めて、Hondaは事業所の周りに「森」を育てている。 | | | | | | | | | | | 11.6<br>11.7 | | 13.1<br>13.3 | | 15 | | 17 |
| | 31 | 【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】<br>・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。 | | ● | ・カーボンニュートラル施策としてクリーンエネルギーシフトを実施。太陽光発電施策（事業所の屋根・駐車場・調整池へソーラーパネル設置）に加え、蓄電池設置による休日発電電力の夜間平日活用を実施。<br>・再生エネルギー活用として構内車両の一部を軽油からBDF100燃料に変更。 | | | | | | | 7.1<br>7.2<br>7.3<br>7.a | | 9.4 | | 11.5 | | 13.1<br>13.3 | | | | |
| | 32 | 【森林資源の循環利用に向けた取組み】<br>・”伐って、使って、植えて、育てる”の持続的な森林利用への取組みを推進している。 | | ● | | | | | | | 6 | | | 9.4 | | 11.3<br>11.4<br>11.5 | 12.2 | 13 | | 15 | | |
| | 33 | 【植林等の取組み】<br>・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。 | | ● | | | | | | | 6.1<br>6.3<br>6.6 | | | | | 11.3<br>11.4<br>11.5 | 12.2 | 13 | | 15 | | |
| | 34 | 【海洋ごみ】<br>・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。 | | ● | 2006年、Hondaは「素足で歩ける砂浜を次世代に残したい」という想いから、独自開発したビーチクリーナーを使用し、砂浜の清掃活動「Hondaビーチクリーン活動」を継続して実施している。<br>＜直近開催：2025年6月21日　芦北町御立岬海水浴場＞ | | | | | | | | | | | | 12.2<br>12.5 | | 14 | | | |
| | 35 | 【環境に配慮した交通手段】<br>・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。 | | ● | 公共交通利用促進による渋滞削減・環境対策として大津町・産交バス・Hondaで2024年10月より肥後大津駅-Honda間で通勤バス長期実証実験を開始。 | | | | | | | | | 9.4 | | 11.2 | | 13.1<br>13.3 | | | | |
| | 36 | 【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】<br>・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。 | | ● | 2050年に、Hondaの関わる全ての製品と企業活動を通じて、カーボンニュートラルを目指している。製品だけでなく、企業活動を含めたライフサイクルでの環境負荷ゼロを目指し、カーボンニュートラル、クリーンエネルギー、リソースサーキュレーションの3つを柱に取り組んでいる。 | | | | | | | 7.1<br>7.2<br>7.3<br>7.a | | 9.4 | | 11.6<br>11.a | 12.8 | 13 | | | | 17.2 |

SDGs達成に向けた取組みチェックリス **更新**　事業者名：本田技研工業株式会社熊本製作所

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。

（様式第2号）

基本項目記入数 25　チャレンジ項目記入数 20

| 分類 | No. | チェック項目 | 基本 | チャレンジ | 具体的な取組み（※事業者が記載する欄） | 主なSDGs（17のゴールと169のターゲット） 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 製品・サービス | 37 | 【製品・サービスの安全性と品質】<br>・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。 | ● | | Hondaの安全は、「人を羽ばたかせる安全」でありたいと考え、事故のない社会に向けて、誰もが安心して好奇心の赴くまま、どこへでも自由に移動できる。そんな社会をつくるために、Hondaは安全技術に取り組んでいる。二輪車においては、先進ブレーキやエアバックシステムを開発し製品に搭載している。 | | | 3.9 | | | | | | 9 | | | 12.4 | | | | | |
| | 38 | 【ユニバーサルデザイン 】<br>・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。 | ● | | 事業所内において、ユニバーサルデザインのトイレを12か所設置し、誰もが利用しやすい環境整備を行っている。 | | | | | | | | | 9.1 | 10 | 11.7 | | | | | | 17 |
| | 39 | 【地域資源】<br>・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。 | | ● | 事業所の社員食堂で提供している食事の食材は、熊本県産のものを優先的に調達し、従業員へ供している。 | | 2.3<br>2.4 | | | | | 7.3 | 8 | 9 | | 11.a | 12.3 | 13 | 14 | 15 | | 17 |
| | 40 | 【木質化の取組み】<br>・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。 | | ● | | | | | | | | 7 | | | | | 12.2 | 13.1 | | 15 | | |
| | 41 | 【社会課題解決】<br>・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。 | | ● | カーボンニュートラル実現に向け、二輪製品は交換式バッテリー「Honda Mobile Power Pack e:」を動力源にした電動二輪パーソナルコミューターを発売している。また固定式バッテリー搭載モデルも発表し、着実にラインアップ拡充を進めている。<br>パワープロダクツ製品も、パワーユニット領域とガーデン領域を電動製品の主要ドメインに位置付け、電動化の取り組みを加速させている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 42 | 【攻めの農林水産業】<br>・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に取り組んでいる。 | | ● | | | 2.3<br>2.4 | | | | | | 8.2 | 9.2<br>9.4 | | 11.a | 12.2 | | 14 | 15 | | 17 |
| 持続可能な社会・地方創生 | 43 | 【地域への参画】<br>・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。 | ● | | ・企業として地域貢献のため自治体主催の伝統イベントへの協力を実施している。＜2024年度実績：大津町からいもフェスティバル開催場所の強力＞<br>・熊本県の環境保全の一環として自社製品を活用し、従業員やその家族が参加し地域住民と一体となりビーチクリーン活動を実施している。＜芦北町御立岬海水浴場：2025年6月21日実施＞ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 44 | 【防災、減災、レジリエンス（自助）】<br>・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。 | ● | | 定期的に事業所全体での避難訓練を実施し（昼間、夜間）、事業所において防災備蓄と部門単位で災害発生時の組織体制を整えている。 | | | | 4 | | | | | | | 11.5 | | 13.1 | | | 16 | |
| | 45 | 【防災、減災、レジリエンス（共助）】<br>・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。 | | ● | 事業所内96カ所にAEDを設置している。 | 1.5 | | 3 | 4 | | | | | | 10.2 | 11.5 | | 13.1 | | | 16 | 17 |
| | 46 | 【防災関連商品の開発・販売】<br>・防災関連商品の開発・販売を促進している。 | | ● | 自然災害や停電など非常時の備えにも活用できる「発電機」「高圧洗浄機」「ポンプ」「電気自動車」「可搬型外部給電器」などを開発・製造している。 | | | | | | | | | 9 | | 11 | 12 | 13.1 | | | | |
| | 47 | 【SDGsの普及啓発】<br>・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。 | | ● | Hondaは創業期より「環境保全」と「安全の達成」を使命と位置付けてきました。現在も2050年目標として「環境負荷ゼロの循環型社会の実現」、「交通事故死者ゼロの達成」といった高い目標を掲げ、取り組み続けている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 48 | 【インターンシップ等の受入れ】<br>・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。 | | ● | 大学生・大学院生向けにインターンシップを実施し、仕事の内容や環境を知る場の提供を行っている。 | | | | 4 | | | | 8.6 | | 10.2 | | | | | | | 17 |
| | 49 | 【若者の地元定着等】<br>・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。 | | ● | 熊本県内の高校に対して学校訪問を実施し、Honda熊本製作所への理解を深めていただくとともに就職を促進し、積極的に採用している。 | | | | 4.4 | | | | 8.5<br>8.6 | | | | | | | | | 17 |
| | 50 | 【農林水産業の担い手確保】<br>・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。 | | ● | | | 2 | | 4.3<br>4.4<br>4.5 | | | | 8.6 | | 10.2 | | 12 | 13 | 14 | 15 | | 17 |
| | | | 25 | 25 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。